



## Providing Energy Blessings to All

Energy supports our everybody life and society.  
To provide energy when and where its needed,  
Is our major responsibility.

# 2009年3月期 第2四半期決算説明会

2008年11月14日



社会とくらしのパートナー  
～エネルギーと共に・車と共に・家庭と共に～

# 伊藤忠エネクス

IR広報室 TEL03-6327-8003

メール enex\_irpr@itcenex.com

# 2009年3月期第2四半期累計期間の業績

発表者

代表取締役(兼)専務執行役員(兼)CFO

有満 修司

# 2009年3月期第2四半期累計期間の業績 <CONTENTS>

決算ハイライト	4
連結業績概要	5
連結貸借対照表	6
連結キャッシュ・フロー計算書	7
連結販売数量(主要6品目)	8
セグメント情報(連結)(IM)	9
セグメント情報(連結)(CL)	10
セグメント情報(連結)(HL)	11

# 2009年3月期第2四半期累計期間ハイライト

## POINT

### 売上高

過去最高売上高 6,000億円突破

### 営業利益

過去最高益 40億円突破

セグメントでは産業マテリアル事業が過去最高益

### 販売数量

ガソリンが3年ぶりの前年同期比割れ  
( $\Delta 0.8\%$   $\Delta 1.5$ 万KL)

# 2009年3月期第2四半期累計期間連結業績概要

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	前年同期 増減率	2009年3月期 2Q累計期間予想値
売上高	481,928	601,759	24.9%	600,000
営業利益	2,483	4,157	67.4%	4,000
経常利益	2,935	4,322	47.3%	4,200
当期純利益	1,185	2,581	117.9%	2,500
経費率	92%	87%	—	—

## POINT

売上高: 数量前年比減となるも、販売単価UPに伴い大幅増

営業利益: 採算販売の浸透、経費削減効果

当期純利益: 本社ビル流動化に伴う匿名組合出資金持分の譲渡益発生

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年3月期末 実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	増減額
流動資産	158,721	164,610	5,889
固定資産	96,406	105,580	9,173
流動負債	135,415	144,623	9,207
固定負債	36,004	40,040	4,036
少数株主持分	1,922	1,989	67
純資産	83,707	85,527	1,819
負債及び資産合計	255,127	270,191	15,063

## POINT

コーナンフリートのグループ会社化に伴う資産増

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	増減額
営業活動CF	5,329	5,870	541
投資活動CF	△3,109	674	3,784
財務活動CF	△5,335	△6,355	△1,019
現金及び現金同等物の 期末残高	30,413	34,098	3,685
ネット有利子負債	△9,565	△8,427	1,138

## POINT

財務活動CFは借入金の返済による支出

# 連結販売数量(主要6品目)

(単位:千kl、千トン)

油種	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	増減率
ガソリン	1,853	1,838	△0.8%
灯油	539	444	△17.6%
軽油	1,378	1,305	△5.3%
重油	1,000	851	△14.8%
燃料油合計	4,770	4,437	△7.0%
アスファルト	116	124	6.5%
LPガス	502	472	△5.9%
総合計	5,388	5,034	△6.6%

## POINT

販売拠点が確実に増加するも、国内需要の減少が影響

# セグメント情報－産業マテリアル事業

(単位:百万円、千KL)

	2007年3月期 2Q累計期間実績	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	前 期 比 増 減 額	前 期 比 増 減 率
売 上 高	56,534	57,709	80,969	23,260	40.3%
営 業 利 益	853	723	1,496	772	106.8%
軽 油	143	162	148	△13	△8.3%
重 油	437	424	431	7	1.6%
アスファルト	102	116	120	4	3.4%

## POINT

中間留分(灯油,軽油,A重油)の世界的なタイト感に伴う価格転嫁

工業ガス業界の需要が堅調に推移し市況改善

# セグメント情報－カーライフ事業

(単位:百万円、千KL)

	2007年3月期 2Q累計期間実績	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	前 期 比 増 減 額	前 期 比 増 減 率
売 上 高	315,207	368,588	455,520	86,931	23.6%
営 業 利 益	3,062	2,894	3,460	566	19.6%
ガ ソ リ ン	1,547	1,832	1,813	△19	△1.0%
灯 油	388	445	365	△80	△18.0%
軽 油	1,098	1,214	1,153	△61	△5.0%
重 油	463	570	416	△155	△27.1%

## POINT

系列CS2,185カ所(93増 87減)、カー・コレクション428カ所(13増)と好調

# セグメント情報ーホームライフ事業

(単位:百万円、千円、千軒)

	2007年3月期 2Q累計期間実績	2008年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 2Q累計期間実績	前 期 比 増 減 額	前 期 比 増 減 率
売 上 高	47,903	55,630	65,269	9,638	17.3%
営 業 利 益	508	572	501	△71	△12.5%
LPガス販売数量	429	455	434	△21	△4.6%
直 売 軒 数	284	329	329	—	—

## POINT

猛暑および価格高騰に伴う消費停滞

7月CP過去最高(P905\$ B950\$)、8~9月で約100\$下落の乱高下

# 中期経営計画への取組み状況と今期の見通し

グループ中期経営計画



～変革の実行を通じて新たなステージへ～

発表者

代表取締役社長

小寺 明

# 中期経営計画への取組み状況と今期の見通し

## <CONTENTS>

「Core&Synergy2010」	14
「Core&Synergy2010」～定量計画～	15
「Core&Synergy2010」～成長戦略～	16
コア事業の強化と今後のシナジー効果	18
グループカ結集による収益倍増計画	19
通期の見通し	20
セグメント別営業利益見通し	21
新エネルギーの今後の取組み	22
配当政策	23
エネクスの新たな歴史創りの実行	24

# 「Core&Synergy2010」

## コア事業の強化とシナジーの創出のためにスタートした中期経営計画

期 間

2008年度～2010年度(3ヵ年)

位置づけ

新たな経営資源、機能、ビジネスモデルの獲得によって、グループの事業基盤の再構築を行い、成長路線を確立する期間とする

呼 称

**Core & Synergy 2010**  
～変革の実行を通じて新たなステージへ～

基本方針

グループ力の結集によって、垂直水平方向のグローバル展開を図りCoreの強化及びSynergyの創出を行い、収益倍増を実現する。

# 「Core&Synergy2010」 ～定量計画～

1年目は順調に推移

(億円)

	2007年度 実績	2008年度 計画	2008年度 2Q累計実績	1年目計画 進捗率	2009年度 計画	2010年度 計画
売上高	10,937	15,200	6,018	40%	17,800	18,000
営業利益	77	102	42	41%	135	155
経常利益	83	102	43	42%	138	159
当期純利益	41	60	26	43%	70	80

# 「Core&Synergy2010」 ～達成のための成長戦略～

## 2008年度 3つの大型プロジェクトが始動

### “石油ドメインの拡大のために”

☆9月1日 コーナンフリート(株)グループ会社化

運送業者や貨物用車両向けのSS142カ所をエネクス系列CSとしてネットワーク化し、当社グループの軽油販売事業の更なる強化と収益基盤の拡大を目指します。

☆10月1日トレード事業スタート

(伊藤忠グループの石油製品関連事業を承継)

海外市場を見据え、有機的に承継事業をエネクスと統合することで石油製品流通機能の拡充、規模の優位性、事業の効率化等のシナジー効果を発揮します。



SS 数:142店舗 (11月現在)



# 「Core&Synergy2010」 ～達成のための成長戦略～

## “LPG事業ドメインの拡大のために”

☆10月31日 LPG事業の新元売会社設立の合意

ジャパンエナジー、日商LPガスとともにLPガス元売会社を4月1日スタート予定で設立し、元売・卸売機能を強化するとともに、保安・サービスの向上と安定的な供給で総合的な競争力を持ったLPG事業グループを構築します。

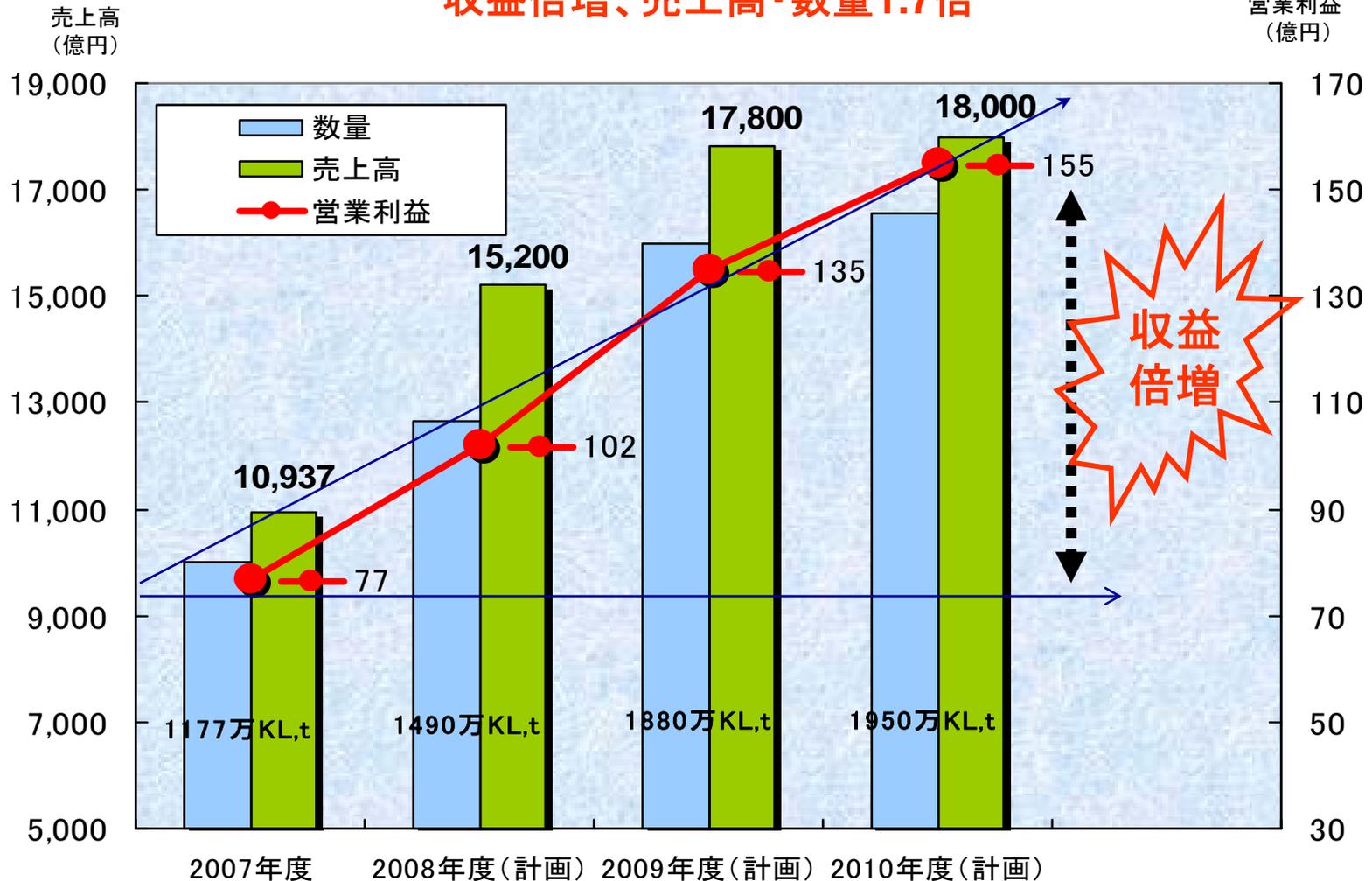
- (1)社名 : 株式会社ジャパングスエナジー(仮称)
- (2)本社 : 未定
- (3)社長 : 未定(Jエナジーから選出予定)
- (4)資本金 : 未定
- (5)設立時期 : 2009年4月1日(目途)
- (6)株主構成 : Jエナジー 51%, 日商 29%, エネクス 20%
- (7)事業内容 : LPGの輸入, 販売(元売・卸売)
- (8)売上高 : 2,800億円程度(年間)
- (9)輸入数量 : 150万トン(年間)
- (10)販売数量 : 225万トン(年間)
- (11)その他 : LPGの海外調達業務は伊藤忠に一元化

# 3大プロジェクトのスタートによる コア事業の強化と今後のシナジー効果

- ① 輸出入機能、需給調整機能の充実による流通構造の健全化
- ② 国内タンク網(約30万KL)の構築によるオペレーション強化と新規取引先の拡大
- ③ 船舶の国内外における船舶燃料油販売の強化とタンカー運航事業による安定収益確保
- ④ コーナンフリート及び運送事業者(インタンク)向け軽油販売の強化
- ⑤ LPG事業の上流から下流までの一気通貫体制構築による卸売競争力の強化と、収益力拡大への発揮

# グループカの結集による収益倍増計画

**2010年度は2007年度比  
 収益倍増、売上高・数量1.7倍**



# 通期の見通し

## 足元の環境

- ①世界同時不況による需要減退と原油価格の下落
- ②流通価格の”透明かつ公正“を目指した元売の新価格体系



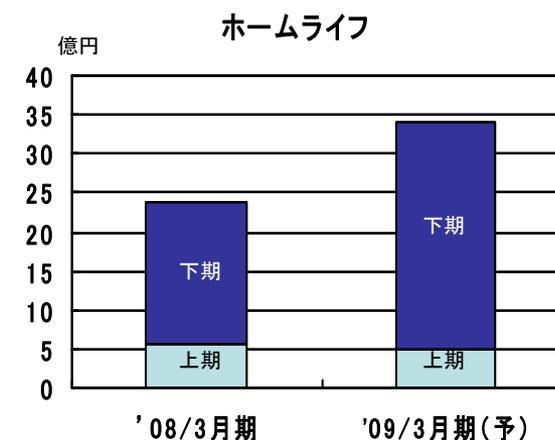
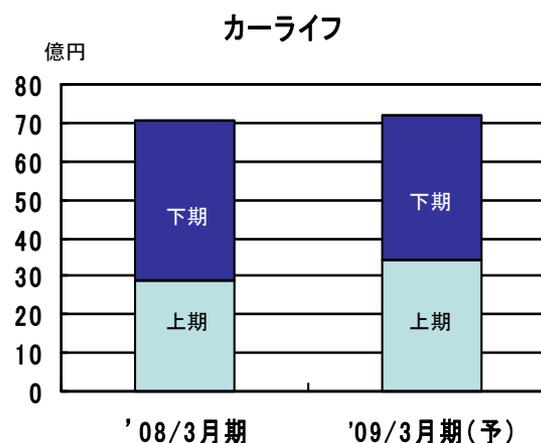
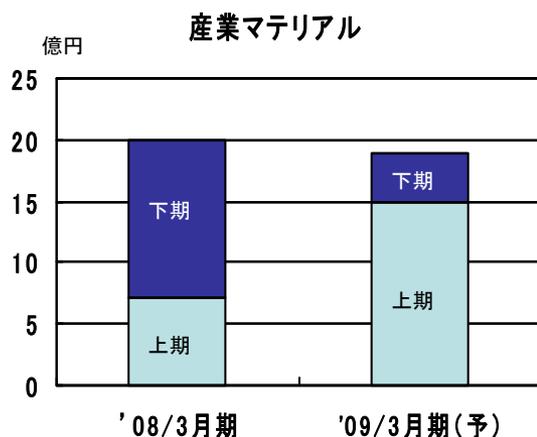
## 当社の取組み

- ①市場環境の変化にタイムリーに対応した適正利潤の確保
- ②M&A・新規系列化・新規取引先確保による販売数量の増大
- ③国内最大の販売流通ネットワークと輸出入、需給調整、ロジスティックス機能とのシナジー効果の極大化
- ④構造改善及びムダを無くした経費統制の継続

# セグメント別営業利益見通し

(単位:百万円)

	2009年3月期 2Q累計期間実績	2009年3月期 下期見通し	2009年3月期 通期見通し	参考 (前年下期実績)
産業マテリアル	1,496	404	1,900	(1,277)
カーライフ	3,460	3,740	7,200	(4,179)
ホームライフ	501	2,899	3,400	(1,793)
ト レ ー ド	—	1,200	1,200	—
合計 (消去を含む)	4,157	6,043	10,200	(5,217)



# 新エネルギーの今後の取組み

従来

DME

・普及活動・インフラ開発

水素

・家庭用FC・水素ステーション

バイオマス

国策により新エネルギーへの取組みが加速

10月より機動的かつ実効性のある取組みを推進する為、営業部門である産業マテリアル事業本部の一員として活動を継続  
( 元売りや伊藤忠グループと連携をとり様々な取組みへ積極的に参加 )

将来エネルギー  
の検証

+

電力・蒸気

太陽光  
発電

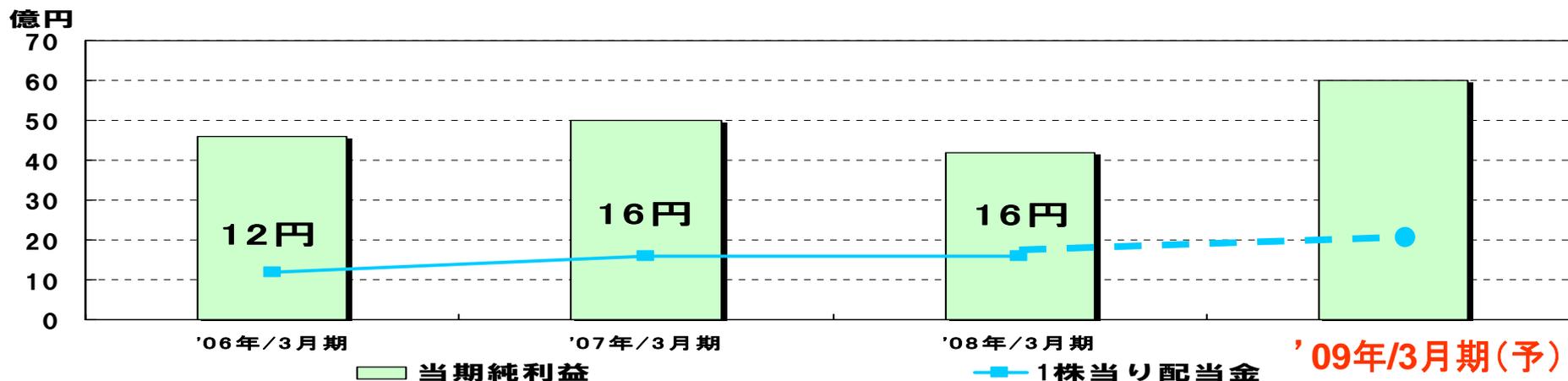
その他  
新エネルギー

当社グループ力を結集し、コア事業への貢献とシナジー発揮に取り組んでいきます

# 配当政策

配当性向30%以上を目標

通期の配当は業績を勘案しながら対応



	'08年9月末	'09年3月末 予想
PBR(株価純資産倍率)	0.74倍	0.87倍
PER(株価収益率)	14.83倍	13.18倍
BPS(1株当り株主資本)	910.94円	771.00円

※9月末株価 677円にて算出

# エネクスの新たな歴史創りの実行

## 新たな歴史創りの実行

## 「ダッシュ」&「ジグザグ」&「知的格闘技」

- ☆ 「愚公山を移す」の気概を抱く “自分”
- ☆ 流通事業者から健全化へ向けて力強い「うねり」の発信
- ☆ 「総合エネルギー」の中で重要な役割を担う存在へ

変革(チェンジ)

## 健全な流通構造の構築

総合エネルギーの取扱い

## 新たな歴史の創生

“社会インフラとしてのエネルギーから  
人を育み、暮らしと心を豊かにするエネルギーまで”

# ご清聴ありがとうございました

## ご注意

- 資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。
- また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

## 問い合わせ先

伊藤忠エネクス株式会社 IR広報室

TEL03-6327-8003 FAX03-5418-2202



[enex\\_irpr@itcenex.com](mailto:enex_irpr@itcenex.com)